

令和2年度

つながりひろがる地域づくり事業

協働事業提案制度実施事業

報告書



令和2年度 つながりひろがる地域づくり事業実施団体

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	安曇野の子どもを育てよう	こちょこちょの会	2
2	おとのわコンサート	安曇野おとのわ	4
3	食と健康の情報発信	食養生研究会	8
4	安曇野もったいない隊	安曇野もったいない隊	12
5	自然農を学び・実践し・楽しもう	Eisbar Platz (アイスベアー プラッツ)	16
6	エジソンの母塾	学習支援センター実帰舎	20

令和2年度 協働事業提案制度実施事業

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	花と緑あふれるまちづくり事業	Garden farm life of Azumino 安曇野市都市建設部都市計画課	24

事業名 安曇野の子どもを育てよう

団体名	こちょこちょの会		
代表者名	赤沼 美奈子	連絡先	
活動拠点所在地	安曇野市内	構成人数	10人
事業実施総額	380,050円	補助金額	190,000円
主な補助金使途	謝礼、備品購入		
事業実施日・期間	令和2年6月6日～令和3年3月13日		
事業概要・成果 今後の展開	<p>① 親子講座 令和2年・6/29・7/27・8/31・9/15・9/28・10/11・10/19・11/16・11/24・12/14 令和3年・1/26・2/9・3/2</p> <p>毎回、子育て中のお母さんや「心と身体の発達」について関心のある方が集まり、日々お家でもできるわらべ歌やふれあい遊びを親子で楽しんだり、実際に目の前の子どもとどう関わったらいいか等の実践を通して学び合いました。</p> <p>今年度はコロナ感染対策から、予定していた4、5月は開催できず、グループラインに登録している会員（36組）にわらべ歌やふれあい遊びの動画を撮影し、配信しました。お母さん方からは「わらべ歌の動画楽しみにしています」「保育園に行きたいけど自粛中だから行けず…な状態の息子とネズミやったらすごく喜んでいました」「心が和み今日も一日頑張ろう！と思いました」などの感想をいただきました（年末も配信）。又、親子講座開催後は時間を1回50分、各グループ先着5組の予約制で2グループ行う等、人数制限を設け、コロナ対策をしながら開催しました。会員がお友達を誘って参加されたり、子育て雑誌を見て参加したいなどの連絡もあり、開催日を増やした月もありました。今後も参加者の定員オーバーが予想されるので、回数を増やしていきたいと考えています。</p>		
			


事業概要・成果
今後の展開

- ② 講演会(1回目令和2年8/22:2回目令和2年12/5 各9時半~11時)
育て直し、育ち直りアドバイザーの角田春高先生を招き、「あづみの発みらい行き子育て」という題で赤ちゃんが大人になる道筋を、心の発達を軸にお話いただきました。8月は市役所4階の大会議室で28人、12月は三郷農村環境センターの講堂でリピーターを中心に20の方が参加されました。講演会をきっかけに、事例検討会や親子講座で更に学びたいという参加者が増えました。
- ③ 事例検討会7回(令和2年・6/6・7/11・8/22・10/10・11/7・12/5・1/23(コロナ感染対策の為中止)・3/13)
会員が実際に関わる事例についてまとめ、発表し、ともに学び、角田春高先生にアドバイスをいただきました。コロナの影響で場所代が有料になったり、職場の規制で参加できない会員がいたり等ありましたが、いくつかの施設とつながり、新規の参加者も増えました。
- ④ 冊子作成
昨年度作成した子育ての参考となる子育て冊子「あづみ野発みらい行き 子育て」を加筆修正しリニューアル。市民タイムス、MGプレス、月刊イクジィ等に掲載され、子育て世代の他、乳幼児関連の施設、小学生から青年のお子さんを持つお母さんからも問い合わせがあり、未就園児の親子講座や事例検討会の他に個別対応の勉強会や相談、児童発達施設からの依頼等の活動につながりました。



事業名

おとのわコンサート

団体名	安曇野おとのわ		
代表者名	田村燈佐子	連絡先	090-4442-7537
活動拠点所在地	穂高有明	構成人数	5名
事業実施総額	141000円	補助金額	62000円
主な補助金使途	報償費（ピアノ演奏・調律・デザイン・動画撮影など）		
事業実施日・期間	2020年10月25日（日）		
事業概要・成果	<p>・プロ・アマチュアが協力して作り上げるコンサートの開催。本格的なクラシックピアノを聞いたことのない方、子どもが小さいなど様々な理由でコンサートに行けないけれども行く機会のない方が気楽に足を運んでいただけるものにする。</p> <p>・プロとアマが協力することによりそれぞれの立場での良いものを活かす</p>		
今後の展開	<p>コロナの影響で子育て世代に声をかけられなかったのが残念でした。仕事の理由で参加できない方もいらっしゃいましたが客席そのものは満席でした。当日の段取りなどメンバーの至らないところを出演者の皆様が主体的に動いてくださり素敵な手作りコンサートとなりました。</p> <p>今後はこの事業を一年一年継続できるようにこれまでの反省点を改善しさらにこの活動が認知されるように努めます。そうして交流が広がることで独立的に採算性をともなう運営を目指し、持続可能な事業を目指します。</p>		
コメント等	<p>写真等 打ち合わせ お茶会（顔合わせ）</p> 		

一般の部

1番

緊張しました。素敵なホールで演奏出来てとても良い経験ができました。重松 初めての出演でしたが音楽を通して地域の皆さんと交流が持てて良い機会だなと感じました。綿引



2番

久しぶりのイベント、無事に開催でき、何事もなく終わったことに感謝でした。田村ひさこ



3番

良く響くホールで演奏して気持ち良かったです。また来年楽しみだ～！！晃



物販もあって地域の人々がつながれるコンサートになって楽しかったです。松本

4番

「それぞれ個性的な演奏で飽きずに楽しめました」田村ゆうき



5番

いろんな楽器が集まった心温まるコンサートでほっこりしました！平林





6番

出演者同士で交流し、出演者とお客さんの距離も近く、アットホームな雰囲気のコサートになりました。音の輪の広がりが楽しみです。

小林

7番

沢山のお客様、演奏者との交流、音楽を届けられたこと光栄でございます。

ありがとうございました。天野雅尋



8番

平均年齢 30 代の奏者が紡ぐ音の輪の音色に聴き入ったコサートになりました！

9番



事業名 食と健康の情報発信

団体名	食養生研究会		
代表者名	中村健太	連絡先	
活動拠点所在地	穂高有明	構成人数	約40人
事業実施総額	707,000円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	勉強会等講師料・会場代		
事業実施日・期間	2020年6月～2021年3月		
事業概要・成果	<p>・事業概要</p> <p>日本に古くから踏襲されてきている、食と健康の叡智である食養生について学び、また情報の発信を通じて啓もうし、地位住民の健康に寄与する。</p> <p>・成果</p> <p>4・5月新型コロナ騒動の影響で、思うような活動ができなかったが、6月以降は順調に実施できた。</p> <p>新規会員登録は想定以上の申し込みがあり、また未入会ながらスポット参加の方も多く、トータル計画以上の方々に食養生の魅力を発信できた。地域の活性化及び参加者の健康意識の向上が得られ、地域の方々の健康意識の向上と予防及び事故対処方法を身に着ける一助となれた。</p>		
今後の展開	<p>今年の成果を良いモデルケースとして、来年度も同様の企画を実行し、より多くの地域の方々に浸透させていきたい。</p> <p>特に勉強会以外の実技的なイベントをより多く組み込めればとも考えている。</p>		

2020年度の活動は、6月の田植えイベントから本格的に活動が開始し、その後、講師を招いての勉強会等を2021年1月末までに約30回開催することができた。(2・3月を合わせると38回の予定)



市内で自然栽培を実践する農家の藤澤さん指導のもと田植え体験。主食の生産を体験するという食養生の大切な学びの場となった。



野外で体を動かしてから、室内で学ぶというスタイルが徐々に定着。
心身一如で健康づくりというのも養生の肝。
毎度テーマがあり、五臓六腑や調味料など多岐にわたる。



地元の伝統食であるおやきづくり名人の波場先生を招き調理実習



調理実習、食養生実践者訪問、農業体験、農家訪問、医師による発酵教室、12月は餅つきも何度か開催するなど、多くの方々と食養生を体験し学ぶことができた。

事業名 安曇野もったいない隊

団体名	安曇野もったいない隊		
代表者名	北澤千穂	連絡先	09053364911
活動拠点所在地	安曇野市内	構成人数	10人
事業実施総額		補助金額	
主な補助金使途	農産物加工体験実施費用/材料、講師謝礼、使用料		
事業実施日・期間	2020年7月1日～2020年12月31日		
事業概要・成果	<p>【事業概要】 安曇野にある「もったいない」ものを発掘し、昔ながらの農産物加工体験（甘梅づくり、干し柿づくりなど）や農家との交流イベントを通じて、地元の農家と移住者、お年寄り世代と子育て世代との交流をはかり、安曇野の魅力を共有していく活動を実施しました。</p> <p>【活動の成果】 <7/1・7/3 甘梅づくり体験> 場所：安曇野市産直センター 参加者：のべ8名 一晩水にさらした梅を梅割りの機械で割っていく。 年配の講師の方から、この地方のお茶のみの習慣、昔話などを聞きながら、お年寄りの知恵や、安曇野地方の習慣に感心することばかり。</p>		
	 		

この後、梅を漬ける紫蘇を洗い、枝から葉だけをとっていく。
翌日、梅と紫蘇、砂糖をビニール袋に入れよくもみ、各自家で保管。



<7/28,10/27 家庭の調理器具で味噌づくり>

場所：講師の個人宅 参加人数8人

家にある調理器具で味噌づくりを体験。



圧力なべで豆を煮て、ミキサーでつぶし糨、塩を混ぜるだけ。参加者からは、簡単に手前みそができることに感動の声が。

10/27 約3カ月後に天地がえしをしました。

<10/31~12/23 干し柿づくり体験>

自宅の庭や畑で収穫できなくなってしまった渋柿が放置されている風景を見かけます。見るたびに「もったいない」と思っていました。収穫できないのは、「農家の方や所有者が高齢になり、渋柿を収穫することができなくなってしまった。」「柿を干すような手間がない。」ということでした。しかしながら、首都圏から移住してきた者にとっては、この干し柿が軒先に干してある風景がとても安曇野らしいと思っていました。

この「干し柿づくり体験」は移住者など若い世代が集まり、柿の木がきれいになり、農家や所有者にとってもお得、移住者にとっても田舎暮らしを体感でき、放置されてしまう柿が美味しい干し柿にもなり、それまで会話の機会がなかった農家の方と移住者や子育て世代の若い世代との間に会話が生まれ、いいことづくめでした。

- ・10/31、11/7、11/15、11/21：個人のお宅や庭先（実名省略）で柿を収穫後皮むき。のべ参加人数 16名
- ・11/3（穂高会館）：皮むき 4名
- ・11/7、11/8、11/10、11/20：柿を干す（農家のハウス）。のべ参加者 12名
- ・11/26、12/4、12/6：干した柿をもむ。述べ人数 8名
- 12/23：柿をパックに詰めて参加者に配る。



今後の展開	<p>コロナ禍において、参加し集まることに対し、衛生面に十分注意しながらの開催はとても大変でした。多くの人があつまるといようなイベントは、コロナの蔓延を心配する声もあり、安曇野産豚の丸焼きを中心に地元の農家との交流をはかるイベント「あずみ野つながるフェスティバル」は中止とせざるをえませんでした。</p> <p>今後、こうした社会情勢を見極めながらも、「もったいない安曇野の魅力」を移住者や子育て世代と、地元の農家さんやお年寄りとは分かちあう活動を続けていきたいと思ひます。</p>
-------	---

事業名 自然農を学び・実践し・楽しもう

団体名	Eisbar Platz アイスベアプラッツ		
代表者名	大島 和美	連絡先	090-7636-7740
活動拠点所在地	安曇野市穂高柏原 942-3	構成人数	6人
事業実施総額	185,000円(見込)	補助金額	90,000円
主な補助金使途	講師料、会場費、農作業で使用する備品購入		
事業実施日・期間	4月1日～3月31日まで		
事業概要・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自然農を自然農法家 中村小太郎さん・まりさんよりご指導いただき、実際に畑で実践し、みんなで学び・体験する。 ・自分たちで農作物を作ることにより、その楽しさ、大変さ、食の安全性、野菜のおいしさを体感し、子供たちから大人まで、みんなで食や環境、農について考えるきっかけを作る。 ・今年は安曇野市有明の畑にて、自然農法でミニトマト・インゲン・枝豆・小豆・しそ・エゴマ・人参・からし菜・さつまいもを育て、小豆はお赤飯に、さつまいもで焼き芋大会も開催。 ・コロナ禍で、多くの人を集めたイベントはなかなか難しかったが、オンラインなども工夫して、塩麴・しょうゆ麴作り、味噌作りなどを開催。 ・2020年度の途中からご縁があり、田んぼでの稲作りの学びも始め、後々お米作りもみんなでやっていけたらと考えている。 ・安曇野市、松本市、塩尻市の様々な農業に関わる方とお会いするご縁をいただき、常に学ばせていただいたり、市民フェスタや軽トラ市に出店する機会をいただき、子供たちにとっても多くの学びの場となった。 		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は、有明の田んぼをもう少し広く借りることができることになったので、大豆を一面に育て、その収穫した大豆と無農薬のお米の麴を使用して味噌を仕込むところまでをやっていきたいと考えている。 ・お店で簡単に手に入るものも、一から自分たちの手で作ることでその大変さと、安心とおいしさ、親子で一緒に食について改めて考えるきっかけ作りをしていきたい。 		

自然農とは
畑で講義を聴くことも
(講師 中村小太郎さん)



家族みんなで参加
(畝を作りトマトの苗を
植えました)



自然農(無農薬、無施肥、
無除草剤)でもたくさん
実りました。



さつまいもの収穫
焚き火を焚いて焼き芋作り
2週間前に収穫したさつ
まいもと甘さを食べ比べ



火起しはパパが大活躍！
子供達も一生懸命、小枝
などを運びます



味噌作りをオンラインで
発信
子供達もデモンストレー
ション



事業名 エジソンの母塾

団体名	学習支援センター実帰舎		
代表者名	家田典和	連絡先	57-6203
活動拠点所在地	松本市 村井町西1丁目21-22 センチュリーハイツ 203号	構成人数	10名
主な補助金使途	安曇野市民への不登校実態理解啓蒙と不登校生徒らへの学習支援		
事業実施日・期間	令和2年(2020年)5月~令和3年(2021年)3月		
事業概要・成果	<p>① 8月29日に「不登校講演会」を開催した。 右 写真市民タイムス9月5日号</p> <p>② 信濃毎日新聞の取材を受け、遠隔授業と「不登校双六(すごろく)」に関する取材を受ける。</p> <p>③ 実帰舎が学習支援をした池田工業高校の3年生が、京都建築大学の入学試験に合格した。1年次には留年の危機に瀕していた。</p> <p>④ エジソンの母塾へ安曇野市の受講者2名 パソコンと電子辞書を支給し、学習支援を始めた。</p> <p>⑤ 不登校のたまり場の松本市の「はぐるッポ」との学習支援業務の提携の打ち合わせを進める。安曇野市からの通所者2名にも対応し始めた。(残念ながらこちらの2名は、現在中断中)</p>		
今後の展開	<p>次年度令和3年(2021年)度には、厚生労働省所管のハローワーク松本の協力を得て、「精神・発達障害しごとサポーター養成講座」の開催を豊科交流学習センターきぼうにて開催する企画で、つながりひろがる補助金の申請を行う。</p> <p>本年度からの不登校・病弱の生徒への学習支援は、徐々に名前を知られるようになってきたので、生徒数の増加を見込む。</p>		

市民タイムス

2020年9月5日号

市民タイムス

令和2年(2020年)9月5日 土曜日 (18)

(第3種郵便物認可)

わが子の不登校 対応学ぶ

豊科で会 臨床心理士が解説



子供が不登校になったときの対応をテーマに話す上間さん

塩尻市などを拠点に活動する市民団体・学習支援センター実帰舎はこのほど、安曇野市の豊科交流学習センター・きぼうで、学校に通えない子供とその保護者を対象とした講演会を開いた。塩尻市広丘高出の臨床心理士・上間春江さんが、子供が不登校になったとき親としての心構えなどを話した。

上間さんは「不登校対応」大切にしたい三つのポイント」と題して講演した。三つのポイントに▽乗り越えて成長につながる力が子供にあると信じる▽子供が自分らしさをどのくらい発揮できているか検討する▽いろいろな

な対応の中でうまくいったところを見つけて広げていく一を挙げた。「子供が『学校に行きたくない』と言いつつのはよほどのこと。背景に何があるか理解するところから始めて」と助言していた。

実帰舎は、不登校や引きこもり、発達障害、病気などで学校に通えない中信地域の若者の支援に取り組んでいる。(赤羽啓司)

安曇野市市民活動フェスタへのパネル展示参加
2020年11月



まなぶ
0143 kurashi@shinmai.co.jp

学校を離れ 家庭・地域で学ぶ

関心高まる「ホームエデュケーション」



新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、子どもたちが長期の臨時休校を経験した今年、学校や学習の意味を改めて考えた人も多かったのではないかと、そんな中、家庭を拠点に学ぶ「ホームエデュケーション」(HJE)に、改めて関心が高まっている。決まったやり方はなく、県内で取り組む親子はそれぞれに合った方法を模索している。支援の動きも広がっているが、どんな課題があるのか探った。

(上野 啓祐)

親子が方法模索 支援団体も

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。

「あれ、ここの魚はおなかが膨らんでいるよ」「よく気づいたね。卵が入っているんだ」

10月上旬、駒ヶ根市の柳沢空河君(9)は、近所の片桐美登さん(65)宅での授業に目を輝かせた。母親の智恵さん(39)が、空河君と弟千空君(6)のために6月から始めたプロジェクト「地域全体を学校」の一環だった。



東京シユレレホームシユレレの情報誌や手引きの冊子を手に、HJEを支援する広域連合制課程のサポート校として、塩尻市に拠点を置く民間団体「学習支援センター 実働舎」の同市と安曇野市で、月2回ずつ親子に無料で家庭での学習方法を指導する「エリソンの母塾」を開く。実働舎の家庭と理専長(60)は「基礎的な学力を身に付けておけば本人の不安は半減する。子どもを支える親の負担も減らしたい」と話している。

「学校当然行くもの」周囲の意識 悩み

専門学校で資格を取り、高齢者福祉施設に就職した。女性は「学校に行かないと社会性が身に付かないと言われるけれど、学校に行った同僚も人間関係に悩んでいる。学校に行くか行かないかは関係ない」と話す。

HJEが制度化されるまで自由

「学校当然行くもの」周囲の意識 悩み

専門学校で資格を取り、高齢者福祉施設に就職した。女性は「学校に行かないと社会性が身に付かないと言われるけれど、学校に行った同僚も人間関係に悩んでいる。学校に行くか行かないかは関係ない」と話す。

HJEが制度化されるまで自由

市民タイムス
2021年2月3日号

実帰舎の不登校支援活動
取材いただきました。

紙芝居のおじさんとして
の家田の活動も取材いた
だきました。

令和3年(2021年)2月3日 水曜日

市民タイムス

学習支援センター実帰舎理事長

キラリ
この人 640

いえだ のりかず
家田 典和さん (60) 松本市村井町西1



塩尻市市民交流セン
ター・えんばーくを拠
点に、不登校や発達障
害、長期入院中の中高
生などの学習支援・指
導を行う「学習支援セ
ンター実帰舎」の理事
長を務める。私立高野
山高校(和歌山県)の
広域通信制課程マイ
ウェイコースのサポ一

不登校生徒の船出見守る

ト校でもあり、高野山
高校に在籍し、通信課
程で学ぶ生徒の自宅学
習を支え、高校卒業ま
でを後押しする。

名古屋出身。54歳
で早期退職するまで、
セイエアプソンに技
術者として勤務した。
在職中に通っていた通
信制大学で、高野山高
校東京学習センター長
を務める河西正之さん
と出会い、

その縁で平成31(20
19)年3月に実帰舎
を立ち上げることにな
った。
学習指導はえんばー
くのほか、インターネ
ットのビデオ会議ス

最近の実績は工業高
校3年生の教え子が専
修学校の推薦入試で合
格したことだ。一時は
落第寸前だったが、中
学校時代のつまづいた
場所まで立ち返って指
導した。箸の持ち方も
社会に出てから困らな
いようにと矯正した。

「実帰舎」の名は弘
法大師空海の言葉に由
来する。「唐で学んだ
空海のように、実帰舎
で学びの果実を得て、
新たな船出をしてほし
い」と願う。

テムも活用し、自室か
ら出られない生徒に遠
隔で指導をする。セイ
コエアプソン時代の経
験から、生徒のインタ
ーネット環境整備の助
言はお手のものだ。

設立から間もなく2
年となり、あらためて
不登校・引きこもりの
深刻さを感じている。
「教育だけでなく、社
会・経済の問題。高校
生年代までの早期支援
が重要」と話す。

あり、信州の景観や歴
史を題材にした紙芝居
を自作し、各地で上演
している。よく通る大
きな声が自慢で「楽し
く伝えることが大事」
と笑う。

(細野はるか)

事業名 花と緑あふれるまちづくり事業

協働事業 実施団体名	Garden farm life of Azumino	安曇野市	都市建設部都市計画課
代表者名	代表 杉 下 久 子	代表者名	課長 横 山 佳 久
活動拠点所在地	安曇野市内、三郷文化公園内安曇野ゴーラウンドガーデン		
事業実施総額	484,000 円		
事業実施日・期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 6 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>①ガーデンファームの管理</p> <p>会員それぞれでガーデンファームの管理を行い、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、近隣住民やガイドブック・報道でガーデンファームを知った方々と交流できました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、毎年開催していたオープンガーデンは中止しましたが、その分訪ねてくださった方々とゆっくりと交流することができました。</p> <p>またガーデンファームの見学後近隣の飲食店やギャラリー、花苗店に足を運んだ方もいるようで、相乗効果も出ていたようです。</p> <p>②ガイドブックの作成・頒布</p> <p>ガーデンファームライフガイドブックを市内の施設や支援してくださっている方々に頒布することで、ガーデンファームのことや安曇野ゴーラウンドガーデンの存在を知っていただく機会となりました。</p> <p>ガイドブックを読んだことをきっかけにオープンガーデンを始めたい、耕作放棄地への関心が深まったという声もあり、今後も発信材料としてガイドブックの発行を続けたいと思います。</p> <p>③安曇野ゴーラウンドガーデンの管理支援</p> <p>昨年度開催された「信州花フェスタ 2019」のサテライト会場として作られた円形花壇『メリーゴーラウンドガーデン』を、市民ボランティアの手で引き続き管理する活動が始まり、Garden farm life of Azumino の会員も活動に参加しました。</p> <p>屋外の広大な円形花壇での作業には、多くの市民の方々が興味を持って下さり、毎週活動が続けるごとにボランティアの参加者も増えました。</p> <p>ボランティア間の交流が進むように、種や苗の交換会や会員のガーデンファームの見学会を開催したり、コミュニティガーデン講座のお手伝いさせていただいたり、企画面でも活動をサポートすることができま</p>		

した。



安曇野
ガーデンファームライフ
ガイドブック 2020



ガイドブックの表紙

	協働事業提案団体	市
役割分担	①ガーデンファームの管理、 近隣住民との交流促進 ②ガイドブックに関する取材、素材 提供、レイアウトの作成 ③ボランティアによる花壇の活動支 援	②ガイドブックの印刷製本 ③作業日の広報
	協働で取り組んだ内容 ②ガイドブックの編集、頒布	

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

〒399-8281 安曇野市豊科6000番地

(市役所本庁舎 2階 4番窓口)

電話：0263-71-2494 (直通)

FAX：0263-72-3176